

取組名	通学路の危険除去（動物・昆虫）および注意喚起
取組の特徴	坂上分校は豊かな自然に囲まれた山間地域に位置するため、不用意な野生動物や昆虫等との遭遇による危険が潜んでいる。このような危険を可能な限り除去すると共に、危険に対する知識と適切な対処法を理解させ、注意を促すことで危険性を減ずる。
学校名	山口県立岩国高等学校坂上分校

取組の概要

① 「生徒指導だより」による注意喚起（以下は内容の一部抜粋）

1. スズメバチに注意（参考：仙台市ホームページ・鳥取県ホームページ）

○注意事項

（1）巣に近づかない

巣に近づくと、巣を守ろうとしてスズメバチが威嚇のために接近してくるので、身体の近くをスズメバチが飛び始めたら、静かにその場から離れること。

（2）服装に注意する

野山に出かけるときは、長袖、長ズボンによる肌の保護が必要です。スズメバチは黒い部分を襲う習性があるので、白い服や帽子を着用すること。

○応急手当

（1）冷たい水で患部を洗い流しながら、毒と血液を絞り出す。

（2）痛みや腫れは、水や保冷剤などで冷やす。

（3）直ちに医療機関へ搬送する（救急車を呼ぶことをためらわない）。

※なお、過去に刺された経験のある人やアレルギー体質の人等は、もしもの時の対応について、主治医にご相談ください。また、そうでなくても、もしもの時の対応（搬送先病院等）については、日頃からご家庭内で決めておくことをお勧めします。

2. クマに注意（参考：『クマに注意！－思わぬ事故をさけよう－』環境省）

○クマとの遭遇をさけるために

（1）一人で行動しないで、集団（複数人）で登下校する。

（2）クマの生息する場所、目撃情報のあった場所付近に近づかない。

（3）早朝・夜間は出歩かない（遭遇する確率が高まる）。

（4）クマ鈴など音の出るものを持ち歩き、人間の存在をクマに知らせる（人間がいることが分かれば、クマの方からは近づいて来にくい）。

○クマに遭遇したら

（1）遠くにクマがいることに気付いたとき

・落ち着いてその場から離れましょう。

・クマを驚かすので、大声を出したり、走って逃げるのはやめましょう。

・写真を撮るのもやめましょう。

（2）近くにクマがいることに気付いたとき

・落ち着いてゆっくりとその場から離れましょう。その際、クマに背を向けずに、クマを見ながら、ゆっくり落ち着いて後退してください。

（3）すぐ近くで出会ったとき

・あわてた人の急な動作で驚いて、攻撃してくることがあるので、冷静に、あわてず、クマが立ち去ってからその場を離れましょう。

② 校内及び通学路の安全点検

（1）毎日の校内巡視の際、スズメバチの巣等危険がないか点検した。

（校内2か所でスズメバチの巣を発見、撤去した。また、生徒昇降口でへびを発見した。）

（2）バス停等、生徒が立ち止まりやすい場所を点検した。

（通学路1か所でスズメバチの巣を発見した。また、サルของกลุ่ม出沒を確認した。）

③ 危険除去のためのはたらきかけ

上記2-②で発見したスズメバチの巣は、通学路沿いの民家軒下であったため、岩国市美和総合支所を通じて撤去のお願いをした。

取組名	普通救命講習
取組の特徴	山口県大島防災センターにおいて、柳井地区広域消防署西出張所救急救命士及び救急隊員による講習を通して、普通救命講習修了の資格取得を目指す。
学校名	山口県立周防大島高等学校（久賀校舎）

取組の概要

1 目的

応急手当の意義について理解するとともに、心肺蘇生やAEDを用いた除細動、異物で窒息をきたした場合の気道異物除去、止血法など応急手当の手順について、体験を通して習得し活用できるようにする。

2 実施日時

平成24年12月18日（火）9：00～12：40

3 当日の流れ

- 9：00～ 9：15 徒歩にて学校から防災センターへ移動
- 9：25～10：00 救急救命処置に関するDVD視聴
- 10：00～11：55 一次救命処置に関する実技講習
- 12：00～12：15 各班代表による実技発表
- 12：15～12：25 講評、事後指導
- 12：25～12：40 徒歩にて防災センターから学校へ移動

4 実施後の感想

- (1) 救急車が事故現場に到着するまでに行う一次救命処置の大切さを学び、全員が真剣に訓練に取り組んだ。
- (2) 1クラスを3班に分けることで、5名の救急救命士及び救急隊員のアドバイスを聞きながら、全員が訓練人形を使用しての実技講習に取り組んだ。
- (3) 休憩時には、防災センター内に設置してある「災害から命を守るための3つの知識」「津波・地震のメカニズム」「液状化のしくみ」などの展示物を見学・操作することにより、防災意識を高めることができた。
- (4) 一次救命処置が必要になった場合、本日の講習を生かして速やかに適切な行動ができるよう普段から危機管理意識を高めておくとうい。



取組名	登校時のあいさつ運動・交通安全週間の交通立哨
取組の特徴	生徒会・農業クラブ役員を中心に登校時に生徒同士であいさつを交わすことにより、生徒間の意識向上、登校時間の分散による交通安全対策
学校名	山口県立田布施農工高等学校

取組の概要

(1) 以前の取組

登校時に生徒会役員・有志の部活動生徒を中心に、正門のあいさつ運動を実施していた。さらにこの活動を充実させるために、農業クラブにも呼びかけ、朝から元気の良いあいさつを行っていた。

(2) あいさつ運動・交通安全立哨の実施

4年前から、本校学校安全部の年間目標に「ピアサポート」を活用した学校行事の充実、生徒会・委員会活動の活性化を掲げていた。ここ数年、クラスマッチ・農工祭等の学校行事を通して、生徒が生徒を指導する効果が見えてくるようになった。これらの活動により、生徒による安心・安全な学校づくりに取り組むことを考えた。

生徒会、農業クラブ、その他の有志を中心に朝8時からあいさつ運動を始めた。また、本年度は教職員も毎朝校門において交通安全立哨をしており登校時の安全指導を行っている。

交通安全週間には、近隣の交通量の多い交差点において、交通安全立哨を行っている。

(3) あいさつ運動・交通安全立哨の効果

あいさつ運動を開始して、朝の登校風景に変化が現れた。まずは、生徒同士であいさつをするようになり、朝から学校に活気が出てきた。また、服装指導についても効果が現れており、特に女子生徒の制服の着こなし指導については一定の効果が現れている。また、あいさつ運動に参加する生徒が通常より早く登校するようになり、保護者が自動車で送迎する際に正門より少し離れた路肩が広い場所で自動車を止めるようになり、正門付近の交通渋滞がほぼなくなった。それに伴い、徒歩通学生や自転車通学生の交通マナーも改善された。工事関係の車両も生徒のあいさつに配慮してくれるようになり、校内への侵入スピードの減速につながった。

交通安全立哨では、生徒会・各部活動の有志が100名程度参加する大規模な活動になっている。この活動でも、日頃のあいさつ運動の効果が現れており、恥ずかしがらずに大きな声で交通安全を呼びかけ、地域の活動の一つとなっている。

(4) まとめ

昨年度より継続的にあいさつ運動を実施しており、続けていくことの重要性を感じている。生徒は、あいさつ運動に参加するために早起きの習慣が身に付き、余裕をもって行動することが出来ている。これからも、人数を増やしながら続けていきたいと考えている。また、交通安全立哨ではここ数年の活動に対して、柳井市の交通安全協会から表彰を受けるなど、本校の活動が評価されている。



取組名	交通安全 自転車マナーの向上
取組の特徴	生徒たちが行動し、自分で考え、交通安全意識の向上
学校名	山口県立宇部工業高等学校 全日制

取組の概要

登校時、安全運転の呼びかけ

夏の交通安全県民運動期間中の7月13日の朝、各クラスの交通委員28名が、他校の生徒や近隣の高齢者とともに、自転車を使う人に運転マナーの向上と高齢者を思いやる安全運転を呼びかける街頭キャンペーンを、宇部市の国道490号 神原交差点付近で行った。

生徒たちは、交通安全ののぼりや旗を手にとって立ち、自転車通学生徒に大きな声で呼びかけ、自転車の事故防止に取り組んだ。

交通委員は、各季節の交通安全運動期間中に、本校周辺の通学路で安全運転の呼びかけを続けている。

交通安全教室

交通安全の呼びかけを行った7月13日、全校生徒を体育館に集め交通安全教室を行った。

本校の自転車通学生は410人と全校生徒の80.4%にもなり、一人ひとりの交通安全意識の向上が求められている。

指導は本校の交通係の教員が、イラストや本校周辺の通学路の写真をプロジェクターで示し、危険予測学習（KYT）を活用して行った。


スクリーンに映し出されたイラストや写真から予測される危険を生徒に気づかせ、安全な通行について考えその方法を発表させることにより、安全な自転車運転への意識の向上が図られた。



○通学路での安全運転の呼びかけ



○交通安全教室

取組名	外部関係機関を活用した自転車交通安全教室の実施
取組の特徴	スタントマンによる交通事故を再現することにより、交通事故の怖さと交通安全に対する意識の一層の向上を目指す。
学校名	山口県立柳井商工高等学校
取組の概要	
1	ねらい 危険な自転車走行に伴う交通事故場面を再現し、生徒が事故の危険性を疑似体験することにより、自転車交通事故の危険性を理解する。
2	方法 J A 共済連山口県本部・山口県警察本部・柳井警察署等から講師を招き、生徒全員を対象に、午後の2時間を使って実施した。
3	内容 自転車交通安全教室 ①実演「交通事故再現スタント」 「自転車乗り方指導等」 ②講義「柳井警察署管内の交通情勢」
	
4	生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・普段から使っている自転車も乗り方のルールを守らないと大きな事故につながるということがよく分かった。 ・自転車だからという軽い気持ちで運転することがないようにしたい。 ・今後は交通マナーに気をつけ、安全に自転車を利用したいと思う。
5	取組の成果 交通事故の原因となる違反運転や飛び出しによる出会い頭の衝突事故、トラックの「内輪差」による巻き込み事故、自動車の死角による衝突と接触事故等を、スタントマンによる実演を見学し、自転車による交通事故の危険性や交通安全意識の大切さについて理解を深めることができた。生徒は、本日の実演・講義を通して自転車の交通マナーやルールを守り、交通安全に徹した通学をしてもらえると思う。

取組名	交通クイズ大会
取組の特徴	生徒指導課による「交通クイズ大会」と自主制作ビデオによる交通安全教室
学校名	山口県立大津・大津緑洋高等学校
取組の概要	
<p>1. ねらい</p> <p>交通安全に関する危険予知意識の高揚と、交通ルールの理解</p> <p>2. 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全に関するクイズをつくり、全校生徒で正解率を競う。(10人グループ → クラスマッチ形式) 学校周辺や校地内で起こり得る交通事故を想定した自主制作ビデオを視聴させる。(ドライバーからの目線で、薄暮の時間帯に歩行者や自転車がどのように見えるかを認識させる。) <p>3. 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉に体育館に集まり、各グループに分かれる。 30問で構成された「交通クイズ」をグループ単位で設定時間内に答える。 解説をしながら解答を行う。 正解率を割出す間にビデオ鑑賞を行う。 <p>【問題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 状態別交通事故死者数で以下の項目を多い順に答えよ。 A. 自動車乗車中 B. 二輪車乗車中 C. 自転車乗車中 D. 歩行中 月別交通事故の発生件数・死者数ともに一番多い月は何月か。 自転車のライトは何m先まで見えるものでなくてはいけないのか。 A. 5m B. 10m C. 15m D. 20m E. 25m 子供を背負っての2人乗りが例外的に認められているのは何歳未満か。 A. 3歳未満 B. 4歳未満 C. 5歳未満 D. 6歳未満 E. 20歳未満 家から学校までは自転車で15分かかかる。朝何時に家を出るのが適切か。 ※校則の登校時刻の15分前では不正解。余裕をもって家を出ることを意識させた。 自転車の交通事故を防ぐために本校交通委員が掲げた安全な正門への入り方を答えよ。 「一時停止」と「()」 山口県の交通安全スローガンである。()に適語を入れよ。 「()山口 いつも()に交通安全」 <p>【感想】</p> <p>今年度で5回目を迎えた。生徒指導課長によるユーモアに溢れる進行で、珍解答や迷解答もあり大変盛り上がる。また、自主制作ビデオは本校教員と交通委員による製作で、実際の状況を設定した内容になっており、教員側から、また生徒側からそれぞれの立場で納得のいく内容になっている。</p> <p>問題の難易度によって毎年の正解率は異なるが、大会前に予習をしているグループが出たり、交通法規を学習する良い機会になっている。</p>	

取組名	避難訓練
取組の特徴	7月と12月に避難訓練を実施する。 12月については豊田東消防署の指導の下、避難・放水・消火訓練を実施する。
学校名	山口県立西市高等学校

取組の概要

1 ねらい

訓練を通して安全で迅速な避難の方法を体験させ、火災・地震・不審者侵入等の緊急の場合に備える。

2 方法

7月と12月の学期末考査終了後に実施する。

3 訓練内容（2回目の12月の訓練）

(1) 平成24年12月14日

(2) 訓練日程

10:55	2限終了
11:05	H R
11:15	避難訓練
11:45	終了 掃除、HR

(3) 訓練内容 《避難》 (1) 非常ベルが鳴る。(出火場所は特別教室棟)

(2) 事務職員が出火元を確認し緊急放送。

(3) 教職員・生徒は、A地点に避難

(4) 男女別に朝礼隊形に集合。

HR委員は、人員点呼し本部に報告。

《放水》 体育館の消火栓を使って放水。(生徒数名)

《消火活動》 消火器を使って消火活動(教員1名、生徒2名)

《講評》 豊浦東消防署長

校長

(4) 役割分担

総括	校長	本部	教頭, 事務長, 事務主査, 訓練担当
出火確認・連絡	事務職員	誘導	各クラス担任
緊急放送	事務長	消火栓	体育課長
119番通報	事務職員	救護班	養護教諭

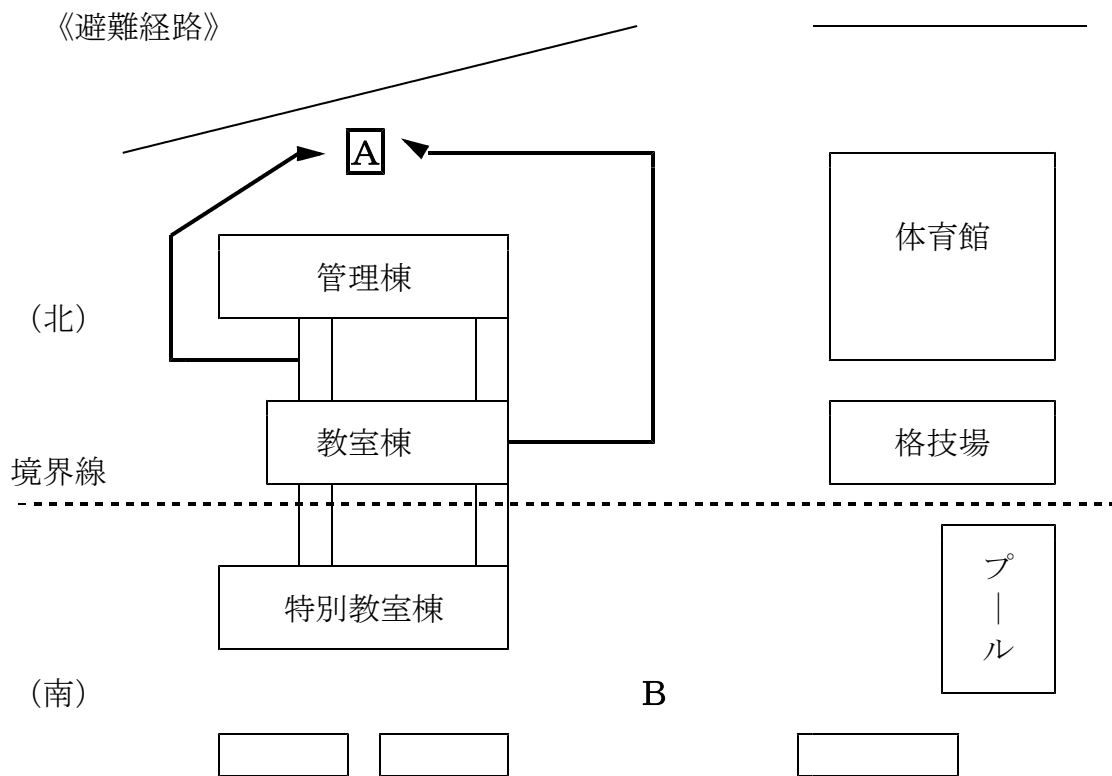
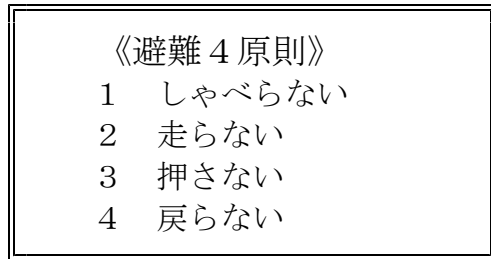
(5) 留意事項

- ① 全員指示放送をよく聴き、消灯戸締めりをして迅速・安全に避難する。
- ② 避難に際しては室内では早歩き、屋外では小走りとするが、決して前の者を押すことなく臨機応変かつ冷静に行動すること。
- ③ 1組はグラウンド側、2組は体育館側の通路を使用する。
- ④ HRで担任が避難経路・人員等の確認をしておく。
- ⑤ 避難所要時間は指示放送から本部報告終了までとし目標は3分以内とする。
- ⑥ 雨天時は、体育館へ避難する。

(6) 火災時における避難経路及び避難場所について

- ① 火災時には、生徒は安全で迅速な避難が有効に行われるよう、避難経路及び避難場所を下図に示す。
- ② 境界線より南側での火災の場合はA地点へ避難し、北側の火災の場合はB地点へ避難する。

(7) 準備する物 消火器3本、脚立、マスターキー（特別棟）、ハンドマイク



取組名	防災訓練、交通移動教室、防犯教室、防災教育講演
取組の特徴	より現実に即した安全教育の実施
学校名	山口県立新南陽高等学校

取組の概要

1 防火防災訓練

(1) 目的

火災や災害に際し、安全・冷静かつ敏速に避難できる態度と行動を身につけ、同時に、火災（震災）予防意識の高揚を図る。育てたい力（深く考える力）

(2) 実施日時

平成24年12月17日（月）4限頃

(3) 対象

全生徒、全教職員

(4) 実施内容

現実的な場面を想定するために事前指導として実施当日の朝、当日避難訓練があることだけは生徒に知らせるが、**実施時間についてはいつ行われるかを知らせないで避難訓練を行う。**

2 交通移動教室

(1) 目的

交通事故を未然に防ぐために、**生徒体験型の講話や実技指導**を通じて危険予測能力を高めさせる。育てたい力（深く考える力）

(2) 実施日時

平成24年11月8日（木） 14:30～16:00（移動時間を含む90分）

(3) 対象

1・2年次生及び教職員

(4) 実施内容

山口県警察本部交通部交通企画課交通移動教室班に来校していただき、体育館での講話に加え、グラウンドにて『特設の自転車コースを用いての実技指導』や『自動車の内輪差による巻き込みについて』、『人型人形による事故の実演』等を行った。

3 防犯教室

(1) 目的

周南市で頻発する不審者・変質者、痴漢事案に対し、被害防止のための予防意識を高めると同時に、被害にあった場合の対応について学ぶ。育てたい力（深く考える力）

(2) 実施日時

平成25年1月10日（木）7限

(3) 対象

1年次生及び対象教職員

(4) 実施内容

『110番の日』である1月10日に、周南警察署生活安全係の方に来校していただき、**実際に管内で起こった被害例**をもとに、被害防止のために心掛けなければならないことや、発生後の対応について講演していただく。

4 防災教育講演

(1) 目的

危険予測・危険回避能力を高めるために、防災に対する平時の備えや、災害時にとるべき行動を確認するとともに、命の尊さを学ぶ。育てたい力（深く考える力、豊かな人間性・社会性）

(2) 実施日時

平成24年10月17日（水）14:50～15:35

(3) 対象

全生徒、全教職員

(4) 実施内容

実際に**東日本大震災の支援活動に参加された**周南市消防本部警防課の方に来校していただき、自らの**体験談**を通じて、震災の悲惨な現状や防災に対する平時の備え、災害時にとるべき行動について教示していただいた。

取組名	緊急対応訓練
取組の特徴	児童生徒がいなくなった時の教職員の対応を訓練する
学校名	山口県立萩総合支援学校

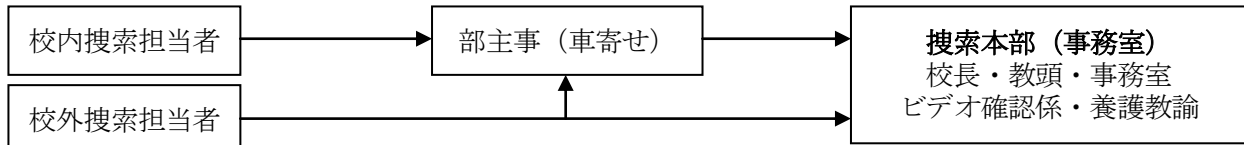
取組の概要

- 1 目的 (1) 緊急時捜索体制の実効性を高め、児童生徒の安全を確保する。
(2) 全教職員の共通理解を図るとともに、危機管理意識を高揚する。
- 2 日時 平成24年5月14日(月) 児童生徒下校後の放課後に実施。
- 3 内容 (1) 緊急対応訓練
 <想定>〇〇さんがいなくなった。(子ども役の教員が実際にいなくなるので放送をよく聞いて捜索する)
 <捜索>別紙「緊急捜索体制」をもとに捜索する。
 (2) 反省会
 捜索隊が戻り次第、各学部で約10分程度、反省会及び課題を話し合う。
- 4 その他 児童生徒の指導にあたる教員は、捜索時の動きを確認後、(実際には児童生徒が不在であるので)校内の危険箇所の点検・確認をする。
- 5 訓練
 ○放送「〇〇部の〇〇さんの上靴が見あたりません。心当たりのある方は、至急連絡をお願いします(繰返し)。」
初動捜索【校内重点】(約3分間)
 ↓
 ・監視カメラの画像確認(事務室)
 ・手の空いた教職員で捜索(授業は継続中であるという設定)
 ○放送「**1回目の放送**をします。〇〇部の〇〇さんの上靴がなくて困っています。見つけられた方は至急連絡をお願いします(繰返し)。**1回目の放送**を終わります。」
第1捜索体制【校内重点・校外初期捜索】(約5分間)
 ↓
 (実際には授業を中断し、各学部で子どもを集めて待機させる)
 ・事務室に捜索本部設置
 ・校外捜索隊が玄関前に集合し、子どもの情報を得てから捜索開始
 (徒歩や自転車を使用して捜索に当たる)
 ○放送「**2回目の放送**をします。上靴はまだ見つかっておりません。範囲を広げて捜してください(繰返し)。**2回目の放送**を終わります。」
第2捜索体制【校外重点・第1捜索体制を維持したまま遠方捜索開始】
 ↓
 ・遠方捜索隊が玄関前に集合し、子どもの情報を得てから捜索開始
 (自家用車を使用して捜索に当たる)
 ○発見・保護(部主事が捜索隊に連絡し、帰校確認)
- 6 確認事項
 ・緊急時につき、個人の携帯電話を所持して捜索に当たる。
 ・各学部の自転車や教員の自家用車を使用することがある。公用車は救護用に待機。
 ・捜索隊は学校へ連絡するが、通話中の時には部主事に連絡する。
 ・該当児童生徒の担任又は担当は捜索隊から外し、本部への状況説明や保護者への連絡に当たる。出張等で捜索隊がいない場合は、校内待機メンバーより代替者を出す。
 ・救護車の要請が必要な場合は、本部の指示により救護班が現場に行く。
 ・小さい子は、戸棚やロッカーに入る可能性もあるので、注意して捜索する。
 ・教職員の自家用車は必ず施錠しておく。
 ・年休等で教員や部主事が不在の時の対処方法を各学部で確認しておく。

資料「緊急搜索体制」（搜索場所の担当者名は削除済み）

☆初動搜索（3分間）

☆第1搜索体制（5分間・校内重点・校外初期搜索）



搜索場所及び児童生徒の校内待機場所

担当 場所	事務室・保健室	小学部	中学部	高等部
校内	図書室、昇降口 車寄せ、食堂	体育館及び周辺 小学部棟内 教材室、トイレ	中学部棟内 中学部棟周辺	高等部棟内 高等部棟周辺 グラウンド
校外 (徒歩又は自転車)		山口福祉文化大学 方面	A方面(高架橋すぐ 右小道からマリー ナ) B方面(大学アパー ト小道)	C方面(美萩公園～ コンビニ) D方面(住宅小道上 り) E方面(山道上り)
待機	保健室 (養護教諭1名)	教室又は自立活動 室	図書室	高等部ホール

☆第2搜索体制（第1搜索体制を維持したまま遠方搜索開始）

搜索場所（自家用車で搜索）

シーマート・東萩駅方面	旧道から松陰神社方面	越ヶ浜・阿武町方面
-------------	------------	-----------

取組名	安全な自転車通学をめざして
取組の特徴	自転車を使って通学している産業科の生徒を対象に、自転車の点検方法、きまりやマナーの学習を継続して行っている。
学校名	山口県立田布施総合支援学校

取組の概要

1 ねらい

自転車のしくみや正しい乗り方を知り、安全に自転車を運転できる知識や技能を身につける。

2 対象

高等部 1～3 年生 産業科生徒 8 名

3 内容

(1) 自転車の安全点検

本校独自の点検簿（図 1）を作成し、特活の時間を使って月に 1 回、安全点検を行っている。チェーンやブレーキ等のしくみやサドルの調整方法を学習し、点検簿に従って、二人一組で協力しながら安全チェックに取り組んでいる。

生徒たちは、「自転車の仕組みは今まで知らずに乗っていたが、理解して乗るようになった」「チェーンにオイルを差すとよいことがわかった」「反射板の役割がわかった」「タイヤがすり減っているのを見つけられた」「大切に乗るようになった」との感想だった。



(2) 交通安全教室

4 月 25 日に全校生徒を対象とした交通安全教室に参加。柳井署の交通安全課より指導に来ていただいた。自転車の乗り方実技では、安全な発進、停止のしかた、曲がり方などを学んだ。

(3) きまりやマナーの学習

自立活動の時間を使って、「自転車安全利用五則」、危険予測、違反と罰則、交通標識などを学習した。

危険予測の学習には、DVD「安全な通学を考える～加害者にもならない～」を使用した。同DVD付属ワークシート及び「安全な通学を考える」と題した、本校生徒に合わせて作成したプリント（図 2）を使い、DVDの映像を見て、自分の通学路と照らし合わせながら学習し

た。

また県警のHPから抜粋した資料、JA共済にいただいた「自転車安全交通ブック」も活用し、わかりやすく学習できた。

(図1)

自転車点検簿(産業科)		月日	月日	月日
防犯登録証番号 山口県 井一116×××				
〇年〇組 氏名 〇〇 〇〇				
点検箇所	点検のポイント	月日	月日	月日
1	ブレーキ ブレーキが前後ともによくきくか確認しよう。			
2	タイヤ タイヤの空気は十分か、みぞがすり減ってないか確認しよう。			
3	ベル ベルがちゃんと鳴るか確認しよう。			
4	ハンドル ハンドルが曲がっていないか確認しよう。			
5	ライト ライトが明るく点灯するか確認しよう。			
6	反射材 後部反射器材 反射材や後部反射器材が、後方や側方からよく見えるか確認しよう。			
7	サドル サドルがまがったとき、両足の先が軽く地面につく高さになっているか確認しよう。			

(図2)

安全な通学を考える。

～そういえばある! 「ヒヤリ」「ハッ」とした経験～

- 1 自転車で走行中、事故になりかけて、「危なかった!」と思ったことが・・・
【ある ない】
- 2 しで「ある」と答えた人へ:
・どこで?・・・
・相手は?・・・ 車 自転車 歩行者 乗車
・原因は?・・・

見通しの悪い交差点 《_____の衝突がダントツ!!》

- 1 交差点での安全進路を【 している あまりしていない いつもしていない】
- 2 なぜ安全進路をしない人が多いのでしょうか?

一時停止の標識のある交差点 《自転車は_____です!》

- 1 自宅から学校まで、いくつくらい一時停止の標識があるでしょうか?
標識してみたことがありますか?
- 2 そのうち、いくつの場所でも一時停止していますか?

歩道での走行

- 1 自転車で歩道を走行する場合、気をつけなければいけないことをあげてみよう!

信号のある交差点の横断

- 1 自宅から学校まで、いくつの場所でも信号のある交差点を通りますか?
- 2 信号のある交差点では、どのような危険があるでしょうか?

夕暮れの帰り道

- 1 映像を見て感じたことを書いてみよう。
- 2 早めの_____をこころがけよう!!

取組名	幼児児童生徒と教職員による「地震想定避難訓練」
取組の特徴	① 地震発生時に自らの安全を確保するとともに、対処法を身につける。 ② 非常時に持ち出しリストを作成し、実際に持ち出すことにより職員体制のあり方を探る。 ③ 保護者引き渡しの手順を確認する。
学校名	山口県立下関南総合支援学校

取組の概要

1 ねらい

- ① 地震発生に対して、安全確保をしながら適切な避難経路を取れるようにする。
- ② 職員の役割分担等について実際の活動の中で確認する。また事後においては、結果の評価を行い改善策につなげていく。

2 内容

① 地震発生時の対応

- ・地震が発生したことを知り、教員の指示に従い机の下等に隠れ、落下物の危険を避ける。
- 避難時は、障害物等を想定して行動する。

《発生時間は非公開で行い、放送が使えないことを想定して大声を出して各階の教員や生徒に指示しながら、安全に避難場所へ集合する訓練を行った。》



② 第1次避難場所（運動場中央）→第2次避難場所（体育館）に移動

第2次避難場所では、非常時の持ち出し物にはどのようなものがあるかを知らせた。その後、保護者への引き渡し証の手順を確認した。

- ・緊急時の非常時に持ち出物を児童生徒に知らせる。
- ・引き渡し確認証の記入→担任が時刻と引き取り者名を記入し主事に渡す。

③ 避難訓練の講評

- ・地震発生時に自らの安全を確保する大切さや命の大切さ等について話す。

また、状況によっては保護者への連絡が取れないことが考えられるので、その対応についても、流れを確認した。